

※このメールは、MIT・エナジー・ビジョン社の視察セミナーにご参加頂いた方々に BCC でお送りしています。

※四半期に 1 度程度、メールニュースをお送りします。

※お手数ですが、ご迷惑に思われる方は、「送付不要」とだけ記して、送信者に返信していただけますと送付リストから外します。よろしくお願いいたします。

=====

皆さま、明けましておめでとうございます。2017 年もよろしくお願いいたします！

さて、クリスマス明けから欧州では寒波が到来し、一面雪景色になっています。日本でも 1 月中盤にはこの冬一番の寒波がやってきていますから、毎日がきりっと引き締まりますよね。

とりわけ冬においては、定期的な運動で体を温めて、耐性ある風邪やインフルエンザに強い体を維持することが大切です。でも、毎日の忙しさにかまけているとそんな時間は・・・現代の暮しは日本でも欧州でも世知辛いです。

さて今回も、MIT メンバー 3 名から、皆さまにコラムと各種の告知についてメールニュースをお送りします。今回は、滝川→村上→池田という順で告知を挟みながらコラムを書いています。最後までお楽しみください(村)。

=====

**MIT: 滝川**

### **都市部で広がる太陽光の賃貸人販売モデル**

先日、2016 年にスイスソーラー大賞を受賞したプラスエネルギー建築の集合住宅について取材する機会を得ました。チューリッヒ市で最大の建設協同組合が立て替えた建物で、木造 4 階建ての 5 棟の建物に 68 世帯が賃貸で入居しています。プラスエネルギー建築とはスイスでは、高度な省エネ性能を持たせた上で、一年の収支で建物で消費する電気と熱の量よりも多くのエネルギーを、建物上の太陽光や太陽熱の設備により生産する建物のことを言います。

取材した団地も、外壁の断熱材の厚さは 31~45 センチで、パッシブハウス仕様の外皮と家電・照明になっています。暖房・給湯の熱源は、スイスでは一般的な地中熱ヒートポンプです。そして切妻型の屋根の全面は、屋根材になっている 556 キロワットの

太陽光発電で綺麗に覆われています。この建物は徹底した省エネのおかげで、117%のプラスエネルギー率を達成していました。余った電気で、電気自動車 49 台を各 1.2 万キロメートル走らせられるそうです。これは同集合住宅で所有されているよりも多くの自動車台数に相当します。

この集合住宅では建設協働組合が太陽光発電を所有し、そこで作られる電力を賃貸人に販売しており、全世帯が購入契約を結んでいます。清算や余剰買取、不足分納入は、チューリッヒ市の都市エネルギー公社が新サービスとして手掛けています。ドイツやスイスの都市部の集合住宅団地で近年増えている「Mieterstrom(直訳すると賃貸人電力)」という事業モデルの一つです。FIT に頼ることなく、賃貸住宅の多い都市部での太陽光普及や、再エネの地産地消、そして賃貸人への安定価格の電力の提供という意味でも、有意義なサービスです。

今年 6 月に MIT で企画している視察では、こういった新しいサービスや事業を日本の現場で再エネ普及に取り組む皆さんと見学できることを、メンバー一同楽しみにしています！

=====

**！お知らせ！**

### **★MIT 企画募集型視察セミナー企画**

#### **「ポスト FIT の再エネ・省エネ事業」 6 月 6 日～11 日**

ミット・エナジー・ヴィジョンでは、6 月に下記の日程で募集型での視察・セミナーを企画しました。

テーマは「ポスト FIT の再エネ・省エネ事業」で、下記のようなプログラム概要を予定しています。

ドイツでは小型 PV を除いて FIT が終了し、FIP・入札制度に移行しています。そんな社会の中での法制度、新事業モデル、進捗中の新しいプロジェクトなどについて視察とセミナーの機会を提供します。参加をご希望の方は弊社にメールでご一報ください。

#### **●プログラム概要**

6 月 6 日(火) 夕方(18 時ごろまでを想定)、フランクフルト空港に集合

6 月 7 日(水) フランクフルト市:

・集合住宅団地における太陽光電力の賃貸人への販売事業(賃貸人販売モデル)

・省エネ改修についてなど予定、レクチャーと視察

6月8日(木) 黒い森北部:

・市民エネルギー協同組合による新電力(再エネ発電&電力小売り事業)

・再エネ電力の直売と産業における自家消費事業についてなど予定、レクチャーと視察

6月9日(金) フライブルク市周辺:

・コージェネによる電力直売

・ESCO 事業

・電気自動車のカーシェアリング

・セクターカップリングについてなど予定、レクチャーと視察

6月10日(土) 黒い森南部:

・午前中: 森林散策と自然の多様性について

・午後: フライブルク市内で自由時間

6月11日(日) フライブルク市:

・午前中: 取りまとめのワークショップ

・午後: 移動の後、夕方(17時ごろまでを想定)、フランクフルト空港で解散

●参加費用: 2600ユーロ(現地集合、現地解散、シングル利用)

●お問合せ: [info@mit-energy-vision.com](mailto:info@mit-energy-vision.com)

※このMIT視察セミナーのプログラムがはじまる直前の5月31日(水)~6月2日(金)は、ドイツ・ミュンヘンにおいて欧州最大規模のソーラーメッセ『インターソーラー』が開催されます。昨年はテスラ社のバッテリーが脚光を浴びたように、今年の注目は、Sonnen社のバッテリー&ヴァーチャル発電所になることでしょう。

<http://www.intersolar.de/en/home.html>

MIT 視察セミナーと合わせてこちらにも訪問されると、ドイツ再エネ市場の「今」を垣間見ることができるでしょう。また、「インターソーラー」のアテンド・通訳もMITでは引き受けています。こちらにも個別にお問い合わせくださいませ。

=====

## MIT:村上

### 2016年のドイツの再生可能エネルギーの総括

2016年の再生可能エネルギーによる発電は、電力総消費量の32.3%に留まりました。2015年が31.5%でしたから、0.8%しか上昇していません。陸上風力がかなり建設されたのに、この程度しか進展しなかったのは、

1. 2015年の風況が平均値を大きく上回るほど良かったのに対して、2016年は例年以下だったこと
2. 2016年の日射量も平均以下で太陽光発電もふるわなかったこと

という理由になります。

また、天然ガス価格が低い水準で推移したことから、石炭や褐炭、原子力よりも柔軟性のある発電源である天然ガス発電が大幅に増加し、全体では13.2%になりました。したがって褐炭、石炭、原子力という従来型の発電は、軒並み発電量を減らしていません。

ただし、全体的な発電量は648TWhと歴史的な記録に達成し、国内消費量593TWhとの格差は開く一方で、輸出超過の電力量は、発電量において8%を超える割合を占めるようになりました。これは、とりわけ石炭発電であり、隣国(オーストリア、スイス、フランス、オランダの順で)において活発に利用されています。

オーストリア向けの輸出量が飛び抜けて大きいのは、広域系統と電力取引市場はドイツとオーストリアがセットになっているからであり、税や系統拡張、再エネのサーチャージなどを負担していないオーストリア国民が、安価なドイツ電力を優先的に利用する形態が固定化しており、一種のフリーライダーとなることで、問題が生じています。

また、スイスとフランスでドイツ電力の輸入量が急増した背景は、原発のトラブルが続いたり、原子炉圧力容器に使用される日本製の鋼材の強度不足の懸念が判明し、停止して大掛かりな検査などをしなければならない事情などによるものでした。

電力市場における取引価格の推移からもこのことは明らかで、電力価格の安価な北欧、ドイツ・オーストリア、ポーランド、オランダに対して、2016年の下半期はとりわけフランス、ベルギー、イギリス、スイスと電力が高値で取引されています。

こうした背景の情報(客観的な事実)には踏み込むことをしないで、ドイツの家庭用電力の小売り価格だけを取り出して、「ドイツ＝電力高い＝再エネ失敗」という論調を張ったり、未だに、日本では「ドイツ＝脱原発＝フランスから原発電力を輸入」というような、まったく事実に基づかない主張をされている方が目立っています。

ということで、英語にはなりますが、非常によく取りまとまった「客観的事実」を取り集めた資料が存在しますので、そちらをご興味のある方は、是非、ご覧くださいませ (Agora Energiewende) :

<https://www.agora-energiewende.de/en/press/agoranews/news-detail/news/coal-power-is-on-the-decline-yet-emissions-have-increased-2016-was-a-year-of-mixed-success/News/detail/>

=====

**！お知らせ！**

### **★MIT 村上の共著の出版 『海外キャリアのつくりかた』**

皆さんの生活に欠かせないエネルギー。とは言っても、とりわけ日本の若手にとって、エネルギーは目に見えないので、エネルギーとは何か、なぜ必要なのか、私たちはどのようにエネルギーを使っているのかを意識したことは少ないかもしれません。

この本を書いている5人は、それぞれのきっかけからドイツに住むようになり(1人はドイツ生まれですが)、日本のエネルギーのあり方に疑問を持ち、ドイツのエネルギーに対する取り組みを見つめながら仕事をするようになりました。

学生をはじめとする日本の若手の皆さんに本書では、「ドイツのエネルギー転換」と「5人の海外における仕事は何か？ どんな経緯で、何を考えて、何をドイツでしているのか？」の2つのテーマについてお伝えできればと思います。

<http://amzn.to/2hDY5Tx>

### **★MIT 村上が主宰している一社クラブヴォーバンが、若手が集う『持続可能なまちづくりサークル』を開始！**

上記の本の出版とともに、一社クラブヴァーバンでは2017年の行動目標として、若手の支援事業を計画しています。

進路に迷う高校生、就活に忙しい大学生、そして社会人として疑問を感じながら働く20代の若手など、「まちづくりや地方創生に興味がある」「再エネや省エネに興味がある」「海外で働くことに興味がある」という方が集い、お互いの悩みや問題意識を議論したり、共同で興味のある講師を招き情報をインプットする、こうした分野の就活や採用情報を共有する、など、様々な企画を支援してゆく予定です。

第一回の集いの会は5/16(火)からスタートします。詳しくは以下のサイトからチラシをダウンロードしてください。

<https://www.club-vauban.net/2016/11/29/20161019/>

=====

**MIT: 池田**

**続けること、とりあえず置いておくこと、捨てること**

昨日、子供のサッカーの試合の観戦中、チームの親との世間話の中で、黒い森のスキー場の話になりました。「黒い森のこの辺の小さなスキー場は、将来性はほとんどないね」と。理由は気候変動の影響と思われる暖冬続き。南ドイツは、先週から寒くなり、雪が降り、スキーができるようになったのですが、標高1000m程度の中級山岳地域では、ここ数年、暖冬で、スキーができる日数が少なくなっています。今年のクリスマスと年末年始は、一番お客さんが来る時に、全く雪がなく、スキー場とその他観光業者は、大きな痛手を受けています。

前回のニュースレターで閉鎖が決まったという私の住むヴァルトキルヒ市のカandelスキー場は、市長のアピールもあって、起死回生、とりあえず2年間、臨時経営体制でリフトを動かすことが決まりました。スキー好きな市民にとっては嬉しいですが、将来性がない、経営的に苦しいことがわかっているスキー場を、無理して運営することは、果たして持続可能か、と疑問を持ちます。市長は、昨年初当選した新人で、「カandelスキー場が閉まるということは、あってはならない」と、関係者にハツパをかけて、とりあえずの継続になったのですが…。

社会や環境や人間関係は、時とともに変化していきます。その中で人は、頑固に続けるもの、とりあえず置いておくもの、捨てるものを選択していきます。

私の町の市長とスキー関係者は、無理してもスキー場を継続することを選択しました。市長が力を入れたのは、スキー場が閉鎖されると町のイメージも、自分の評価にもマイナス影響を与えるからでしょうが、その意地とプライド、自尊心のために、どれだけのダメージや負担が将来的に生じるのか、よく考えなければならないことだと思います。

続ける価値があるかどうか、持続可能の概念のもと、代価案も含め、多角的に検討しなければなりません。プライドや自尊心が傷ついても、とりあえず据え置きしたほうがいいもの、捨てたほうがいいものもあります。諦める、捨てることで、別の発想、別の解決策が浮かんで来ることもあります。一方で、頑固に続ける価値があること、続けることが将来のためになることもあります。市民によるボトムアップの民主的なエネルギーヴェンデはそれに該当すると私は思います。

何を続けるか、何をとりあえず置いておくか、何を捨てるか、私も、プライベートでも仕事でも、私自身に絶えず問いかけるようにしています。判断、選択、決断は、容易なことではありませんが。

=====

**！お知らせ！**

### **★ソーラーコンプレックス社による日本語ニュースレター**

ミット・エナジー・ヴィジョンでは、南ドイツの市民エネルギー企業ソーラーコンプレックス社が発行するニュースレターの日本語版の作成をサポートしています。同社の活動は、日本で地域密着の再生可能エネルギー事業に取り組む方々にも参考になると考えます。下記リンクからニュースレター2017年第1号を読むことができます(ページ下部の solarcomplex-Newsletter 2017.1 Japan からダウンロードできます )。

<http://www.solarcomplex.de/aktuell/newsletter.html>

**！お知らせ！**

### **★100%再生可能エネルギー地域のブログ**

「100%再生可能エネルギー地域のブログ」では、新エネルギー新聞(新農林社)の了承を得て、同誌に掲載された滝川執筆のニュース記事の一部を転載しています。下記リンクからご覧ください。

<http://blog.livedoor.jp/eunetwork/>

今回のメールニュース、いかがでしたか？ それでは、次回もお楽しみに！

メールアドレス変更、配信停止は[こちらから](#)